

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	入間市地域福祉計画進行管理委員会
開 催 日 時	令和3年7月28日(水) 午後2時 開会 ・ 午後3時45分 閉会
開 催 場 所	市民活動センター 3階 活動室1
議 長 氏 名	栗原正明
出席委員(者)氏名	山下恵久子 三上 勝 白井 秀 白水 翠 下里隆子 宮岡幸江 春名恭一 川合輝之 栗原正明 伊藤祐一 橋本康夫 今井英雄
欠席委員(者)氏名	橋本清美
説明者の職氏名	福祉総務課 課長 宮元良知、主幹 浅見孝之、主任 喜多美和
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 議 題 (1) 会議録署名人の選出について (2) 令和2年度第3次入間市地域福祉計画の進捗状況及び進行管理報告(公開) 4 その他 5 閉 会
非 公 開 理 由	なし
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	・会議次第 ・令和元・2年度「元気ないるま福祉プラン」における主な取り組み ・令和2年度第3次入間市地域福祉計画進行管理報告書(案) ・正誤表
事務局職員職氏名	福祉総務課 課長 宮元良知、主幹 浅見孝之、主任 喜多美和、 主事補 山亀 晃
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

議 題

- (1) 会議録署名人の選出について
名簿順により、三上勝委員に依頼

- (2) 第3次入間市地域福祉計画の進捗状況及び進行管理報告（令和2年度分）
・令和2年度を中心に、成果と課題について、資料に基づき事務局より説明

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)
栗原委員長	議事署名人は、名簿順に従い三上委員となる。
事務局	(議題(2)第3次入間市地域福祉計画の進捗状況及び進行管理報告について事務局より説明)
栗原委員長	今の説明に対するご意見、ご質問など何かありますでしょうか。
橋本(康)委員	令和2年度の報告を行っているが、これは令和2年度中に行うべきではないか。令和3年度について報告する場合、来年は改選であるため、新任者が報告を行うのではなく、現任者が任期中に報告書を作成し市長へ提出して欲しい。よって今回の委員会では令和3年度の報告をして欲しい。コロナ禍で事業の中止・縮小は仕方がないが、貧困対策や支援等、コロナ対策関係事業について内容を報告すべきではないか。
浅見主幹	まず、皆さんの任期は令和2年度から始まっていることを確認させて欲しい。その上で年度が終了してからの報告をしていることを承知して欲しい。今回の報告もコロナ禍であり、報告を見合わせており時期が遅くなってしまったことについてご理解いただきたい。また、コロナ対策関係事業は、福祉プランに掲載されておらず、進行管理の対象としていない。福祉プランに掲載されているものについて評価を行い報告している。
今井委員	市の報告書は、半年間についての経過を報告、一年間についての経過を報告のどちらであるのか。

発 言 者	発 言 内 容
浅見主幹	入間市は年間で進行管理を行っている。
今井委員	障害者福祉審議会も同じく半年間の報告を希望したが、入間市は一年単位ではないとシステム上できないと言われた。今後、半年間に変更出来るのか。
橋本（康）委員	委員の任期中に報告しないとおかしいのでは。
今井委員	同じような計画を次の委員が報告する場合は多々ある。
浅見主幹	来年は委員改選も予定されており、どちらが適切か、委員長と相談のうえ案内させて欲しい。
宮岡委員	医療的ケア児の課題に対する協議は行っているのか。
喜多主任	今週会議を行い、課題に対する検討を行うとのこと。
伊藤委員	報告書の4ページにある外国人市民の両事業とあるが、資料1と福祉プランの中には「外国人」と言う言葉は殆んど出てこない。福祉プランには4カ所しかない。外国人市民は、市内に3000人程度在住している。その中には、障害のある子どもも居る。相談等を何処にすればよいか分からない。福祉プランの中にも外国人に関する事業を入れ、時代に乗り遅れない施策を展開して欲しい。
浅見主幹	平成29年の社会福祉法改正において計画に記載すべき事項が示されているが、その中に、外国人に関する事項は入っていない。しかし、当市の地

発 言 者	発 言 内 容
下里委員	<p>域福祉計画には、過去外国人に関する事項を盛り込んできた。今後も同様に考えている。資料については、次回から盛り込んでいく。</p> <p>今後資料に、「外国人相談」と「日本語教室」を追加することで良いか。</p>
喜多主任	<p>次回から、資料に「外国人相談」と「日本語教室」を追加する。</p>
伊藤委員	<p>報告書4ページ下部について「外国人市民の活躍の場の創出のためにも両事業を充実して欲しい。」とした方が良い。</p>
伊藤委員	<p>フードバンクとこども食堂の利用者は、何故増えたのか。</p>
喜多主任	<p>コロナ禍のため、フードバンクは所得が減少した方の利用が増え、こども食堂は学校が休校になり子どもの居場所として増加している。</p>
浅見主幹	<p>こども食堂は、貧困家庭の子どもだけが対象ではないので、周知がされてきたということ。</p>
伊藤委員	<p>ケアラー支援とは何か？アウトリーチと伴走型の用語は一般的なのか。注釈をつけてはどうか。</p>
今井委員	<p>アウトリーチと伴走型支援は、福祉ではよく用いられている言葉である。</p>
浅見主幹	<p>アウトリーチは、支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、支援を行う側から情報・支援を届けること。</p> <p>伴走型支援とは、一度サービスをしたら終わりではなく、寄り添いながら、継続的に関わり見守っていくこと。</p>

発 言 者	発 言 内 容
宮元課長	<p>ケアラー支援は、埼玉県がケアラー支援条例を制定した。市長が埼玉県ケアラー支援条例に着目している。ケアラーとは介助等が必要な人をケア（世話を）している人のこと。ヤングケアラーは、18歳未満の子どもが祖父母や兄弟等の世話をしていること。</p>
栗原委員長	<p>福祉プランに掲載していないものは、囲み記事にしてはどうか。</p>
浅見主幹	<p>囲み記事で対応する。</p>
下里委員	<p>私事だが、避難行動要支援者名簿に登録をしている。高齢者や障害者が登録しているが、申込時と現在の状況が変化していると思うので、毎年現況の確認をして欲しい。登録者は登録時以降、市から連絡がないので、名簿に掲載されているか心配している。危機管理課は現況確認をしているのか。</p>
浅見主幹	<p>令和3年3月現在、対象者は、障害者、ひとり親、外国人等の要支援者等約15000人。そのうち同意者は、2887人である。年一回対象者の住所変更等は確認しているが、緊急連絡先等同意者しか知り得ない情報の確認は行っていない。今後作成を進める予定の個別避難支援計画は、より細かい内容となっており、情報の更新が課題である。</p>
下里委員	<p>手を上げていない人には、それっきりになっている。同意者・支援者の両方とも内容の更新が必要。現況確認をお互いのために進めて欲しい。</p>
栗原委員長	<p>西武地区仏子ニュータウンの民生委員・児童委員は、自治会担当者と民生委員・児童委員4人が、毎年対象者の現況を確認している。</p>

発 言 者	発 言 内 容
伊藤委員	<p>運転ボランティアは、どの程度の人数を必要としているのか。地域ささえあい活動に、病院や買い物に連れて行って欲しいと要望がある。地域ささえあい活動団体に、移送サービスの募集をかけてはどうか。地域から推薦をしてもらい、研修をし、各地区に人数を増やしてはどうか。</p>
臼井委員	<p>移送サービスは、社協の行う福祉有償運送事業において障害のある方等の生活サポートを対象としているので、ささえあい活動とは異なる。</p>
山下副委員長	<p>地域ささえあいとは異なる。地域ささえあいでは、運転手の事故について、対応が困難である。</p>
宮岡委員	<p>いつ報告書を提出するのか。今回これで（案）が取れば提出なのか。避難行動要支援者名簿は、自治会等と危機管理課と福祉部門の連携が取れていないのでは。総合相談窓口は、どの程度進んでいるのか。市民が何でも相談できるのか。</p>
浅見主幹	<p>今回の会議の意見を盛り込んだ内容を改めて、皆さんに確認していただき、（案）を取り、市長へ報告するとともに、HPへ掲載させていただく。避難行動要支援者名簿は、危機管理課と自治会等、福祉部門の連携が必要である。まずは庁内の連携を強化していきたい。総合相談支援窓口は、公共施設マネジメントにおいて設置される地区センター内に整備予定である。ただ、地区センターに配置される人員で市役所と同じことができないといけませんが、それは困難であるため、オンラインでの相談、コミュニティソーシャルワーカーの配置等を模索している。主として初期相談対応となるが、断らない、伴走型支援、アウトリーチを目指し検討していく。</p>

発 言 者	発 言 内 容
宮岡委員	それは、包括支援センターより良いものなのか。包括支援センターの中に作った方が良いのではないかと。時期尚早なのではないかと。
浅見主幹	包括支援センターの中に一緒に構築する案も出たが、多くの委託業者があり調整は困難である。
橋本（康）委員	総合相談支援窓口は、拠点整備として公民館に設置するのか。拠点の整備は、地域福祉計画の目玉なので、ニュアンスが変わってきているのではないかと。地域包括支援センターは入るのか入らないのか。総合相談支援窓口は市役所の中に作るのでは？どの様に集約されていくのか。
栗原委員長	総合相談支援窓口は、各地区のセンターに設置され1つの窓口で色々な支援を受けられる。
浅見主幹	総合相談支援窓口は、地区センター化に伴い当初の予定と変化してきている。
白水委員	総合相談支援窓口は、まだまだ決まらないと思うので、希望を盛り込んで欲しい。
栗原委員長	進行管理委員会は、発破をかけるような形で良いのではないかと。
今井委員	総合相談支援窓口がある自治体で、成功している自治体は、多くの職員等が集まっている。少ない人数で行っている自治体は失敗している所が多い。人員をしっかりとつけて、公約ならば行って欲しい。

発 言 者	発 言 内 容
<p>山下副委員長</p> <p>栗原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>声かけ運動は、コロナ禍でも各地区会長が色々考え、昨年、いるま市声かけ推進会を作った。今年、Z o o mいるま市声かけ運動を始めた。</p> <p>それでは、何か他にご意見・ご質問等がありますか、無いようでしたら、これで議長の役を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p> <p>(その他)</p> <p>今日いただいたご意見を踏まえ、修正した報告書を皆さんへお送りするので確認してもらいたい。その上で、何かご意見があれば寄せていただきたい。次回の開催予定については、年明けに予定している。内容については委員長と相談の上、ご案内させていただきたい。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>令和3年9月10日</p> <p>議 長 の 署 名 栗 原 正 明</p> <p>議長が指名した者の署名 三 上 勝</p>	